

岐阜県重要無形民俗文化財

蛭川杵振り花馬祭り



岐阜県中津川市



普段は静かな町が、この日ばかりはユニークな色彩の衣装でにぎやかに染まります。

Kinehuri Odori



小さな子供も一緒になって、杵を振り踊ります。
過去から現在へ大切に受け継がれているのがわかります。





花をもぎとられた馬が石段を登る迫力が
圧巻です！多くのギャラリーで賑わいます。



 Hanauma Maturi

●杵振り踊りの由来と伝承

杵振り踊りは、五穀豊穡を願うお祭りです。派手な衣装と奇妙な形をした傘、黒と紅に塗り分けられた杵を軽妙に操りながら、4月の16日に一番近い日曜日に奉納されます。

杵振り踊りの起源ははっきりとはわかりませんが、400年前とも600年前とも云われています。

●踊りの日

当日は、3つの神輿が早朝から昼過ぎまで町を練り歩きます。そしてお昼ごろ杵振り踊りの行列が公民館を出発します。

先頭は赤鬼と青鬼、そのあと天狗2員がひしゃくを持ち、「ハクショーイ」と声をかけながら、群衆に頭から水をかける仕草をします。このひしゃくを頭にのせてもらうと病気をしないといわれています。行列の中の神のお祓いを持つ稚児は決して笑ってはいけません。

そして杵振りです。赤、青、黄色の三角の傘をかぶり、手には杵を持ち、前後左右に振り回しながら踊りに合わせて声をあげ、勢いをつけ進みます。その後、太鼓と笛吹き、大獅子が続き、広場を目指します。

広場に着き数周すると、突然「ドドドド!!」と太鼓の乱れ打ちで大獅子は一旦倒れてしまいます。踊り疲れる仕草を「洞入り」といい、杵振り踊りが最高潮に達した時といわれています。

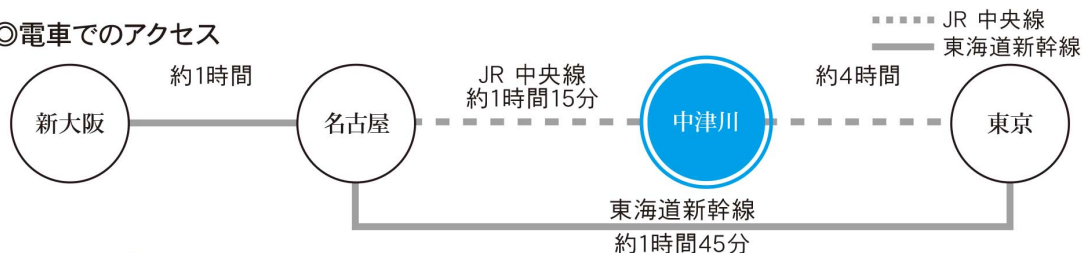
獅子は蘇生し、踊りは隊列を整え、社前に登っていき踊りの奉納を終えます。

●神馬、花馬

「恩弊」を背に負う神馬と、花を背に飾った花馬が鳥居までやってきます。まず神馬が掛け声で神前へ駆け上がります。

つづいて花馬も駆け出そうとしますが、待ち構えた群衆が背に飾った花を奪い取ります。花をもぎ取られながら馬は神前へ石段を駆け上っていき、神馬花馬の奉納は終わります。奪い取った花は田畑にさしておくと病害虫にかからないという伝承があります。

◎電車でのアクセス



リニア中央新幹線の中間駅開通！

リニア新幹線は都市間を行き来し、東京、名古屋、大阪を結びます。
中津川は、主要都市の間にある、中間駅のひとつです。
2027年に開通することにより、中津川に新たな魅力が加わります。

<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/branch/hirukawa/>